

あきる野市員会は次の見解を発表しました。

日本共産党演説会 あきる野ルピアホールで開催

笠井、鈴木両氏が党の政策を縦横に語る



「総選挙勝利へ」と三市議、田端さんが訴え！

総選挙での躍進をめざす日本共産党の演説会が九月二七日あきる野ルピアホールに百二〇名の参加者で開かれました。影山保護員、あいさつにつづいて、来年六月に行われる市議選に立候補予定の田端あずみさん、山根とみえ議員、戸沢ひろゆき議員が総選挙勝利のため頑張る決意を表明しました。

東京二五区予定候補の鈴木おさむ氏は、この自民現職が国会で「有期契約を制限して解雇を厳しくすると雇用調整が困難になる。それは避けなければならぬ」と雇用自由化を求めている質問は許さない。「定数一でも今度は負けられない」と大きな支援を訴えました。

笠井氏は、行き詰まった自公政治への反省も打開策も示せない麻生新内閣を「頭かえりて浮くと思うな泥の船」と自作の川柳も交えて厳しく告発しました。

「政治の中身を大企業、アメリカ中心から国民中心に変える日本共産党が躍進すれば政治は変わる。大きく躍進させてほしい」と力強く呼びかけ、大きな拍手を受けました。

参加者の感想

はじめて共産党の演説会を聞ききました。共産党が伸びるように。元気が出ました。がんばってください。(二市民)

自分の出来ることから始めて大きな力の一部になりたい。つくづく今、共産党が勝たなければと思っています。力強い良い演説会でした。(二市民)



絵手紙/中村スエさん・瀬戸岡在住



たばた あずみ

6歳頃のわたし。遊びの流れで近所の公園の草取りをしました。さらに「いいこと」を思いつきました。株ごと抜き取ったぺんぺん草を売ろう！

妹と2人、社宅の知り合いのうちを売り歩き、手にした「オカネ」に有頂天。家に帰って母親に「はい、おこづかい！」とやったため発覚。

「すぐ返して来なさい！」。ただ返したのではばつがわるい。「おつりで〜す」とお金を持って行きましたが、「叱られたの？」バレバレです。

10円と100円のちがいはわからないこどもの遊びに、お金を払ってくれたとは。わたしだったらどうするかしら。一緒にたのしめるひとでありたいな。

(08.9.30)

連絡先は☎550-6674

野良望
源頼朝・義経の父親である義朝が、二五八年、政敵の平家に叛旗を翻し藤原通憲を大和国で殺害。しかし逆臣となつて平清盛に追われ尾張国で殺された事件が平治の乱です。ここから平家全盛の時代が始まりますが、奢り高ぶる平家は僅か十八年(一一八五)で壇ノ浦に滅びます。▼日本の年号が始まって以来、「平」の付く年号は平治と現在の平成の二回であり中国には一つもないと云います。不穩の時代であった平安末期の平治、そして今、貧困と格差社会が進み、戦争への動悸を感ぜさせる平成と、「平」の字の付いた二つの年号は、相似て凶年と呼ぶべきなのでしょうか。▼総選挙が目前に迫りました。構造改革による規制緩和が働く貧困層と富裕層への二分化シフトを益々強めています。食の安全・医療・自衛隊派遣と国民を脅かす悪政はきりがなく「奢る平家は久しからず」平家は滅びても悪政は自然消滅するわけではありません。総選挙での国民の良識を期待します。(木崎)

後援会だより



東地区後援会で「ブドウ狩り」

9月24日、恒例の「ブドウ狩り(三森ぶどう園)」へ行ってきました。参加者35名。今回はゆっくりとしたコースという事で、午後は武田神社、甲斐善光寺・ワイン工場を見学し、楽しい一日でした。車中では、直前に迫った総選挙の勝利にむけて頑張ることも、確認し合っの帰途でした。

9月定例会市議会

日本共産党以外の「オール会派」議員定数3人削減を強行

九月定例会市議会最終日の九月二十六日、議員定数二四名を二名に減らす条例案を、日本共産党を除く「オール会派」全員の賛成で強行可決した。提案者は、最大会派清風会の市倉理男議員、賛成討論は民主党の清水晃議員が行いました。日本共産党市議団は、あきる野市の議員定数は地方自治法で三人と決められており、すでに六人少ない。

「市民の権利を狭めるもの」日本共産党は市民の立場で反対

議会の自殺行為では?



く、これ以上減らすことは、市民の声を一層市政に反映しにくくし、市政のチェック機能を弱めることになると戸沢議員団長が反対討論を行いました。

国民の生活擁護のため、二つの政治悪(異常な大企業中心・アメリカいいなり)を正す 日本共産党の躍進を!と訴える、あきる野の党支部

「継続こそ力」私たち支部の合言葉です。ハンドマイク宣伝を週1回、選挙時は2回行ってます。(秋川南支部)



昨年秋から、後期高齢者医療制度の廃止の署名を進めてきました。総選挙近しということで、今は山根議員と一緒に市民との対話を強めています。対話の度に日本共産党への激励と期待の声が寄せられることが多く、大きな政治の変化を感じています。(草花支部)

自民党テレビ出るほど人気落ち 西川昇
経済は全治三年自民不治 西川昇
落日の自民市長哀れなり 松嶺坊
反共を叫ぶ市長の時代すれ 松嶺坊

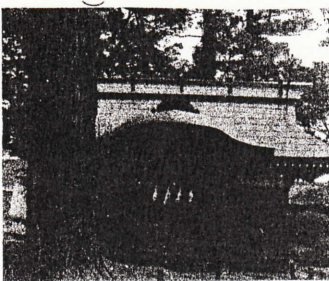
歴史探訪

第76回

地名考・牛沼③

私が住む草花や隣の菅生は、面積が広いので小字が発達し、日常的に町内会名・バス停に使用され住民によく知られています。しかし油平や牛沼は、小字を日常的に使用する機会がないため、住民に一般的な地名として知られていないようです。牛沼の小字の一つに竜ヶ崎があります。隣の代継村が竜ヶ崎藩領(茨城県)であったため、その関係でこの小字が残ったと云われています。また牛沼は社寺の少ない地域です。私の知る限りで秋川神明社一つですが、この神社の前を通る滝山街道は、秋留橋へ向かって下り坂となり、名を山王様坂と云います。秋川神明社は、古代引田村の日吉山王社が洪水で流れ、後に牛沼に移し、牛沼の山王様と呼ばれた伝説から、この名が付いたと云われています。(この項終わり)

草花 木崎秀治



秋川神明社

俳句

奇場の秋花の中や蛙鳴き (静子)
遠き日の母の唄ひし曼珠沙華 (静子)
農作の言葉の絶えて久しけり (志治)
絵日記の端から端へ虹の橋 (淑子)
朝顔や深山の民家まだ覚めず (かほる)
手花火の子の手が描く小宇宙 (勝代)
彼岸花こっちは咲かぬと聞く説 (和恵)
泣き声の大きき赤子豊の秋 (つや)
白く咲く千鳥が湖のまんじゅうしゃげ (照代)
秋雲の流れ見れば我動く (秀治)